

りんご栽培情報 第5号

令和5年7月26日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センターの調査では、7月21日（満開95日後）の「ふじ」の果実横径は、66.7mm（前年比102、平年比100）で、平年並みとなっています。

今後も気温が高い状態が続くと予報されており、現在、ハダニ類が少ない園地でも、急増するおそれがあります。

2 病害虫防除（成園）

（1）今後の病害虫防除

（散布量は5000ℓ/10a）

回	時期	対象病害虫	散布薬剤名	使用時期 （※1、2）	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
13	8月上旬 （前回防除の10日後頃）	斑点落葉病、褐斑病、 輪紋病、炭疽病	オキシラン水和剤	収穫14日前 まで	500倍	200g
		ケムシ類、ヨモギエダシヤク、 ハマキムシ類	マトリックフロアブル	収穫14日前 まで	2,000倍	50mℓ
		展着剤	マイリノー		20,000倍	5mℓ
14	8月中旬 （前回防除の10日後頃）	斑点落葉病、褐斑病、 すす点病、すす斑病、 炭疽病	フリントフロアブル 25	収穫前日まで	2,000倍	50mℓ
		シンクイムシ類、 キンモンホソガ、カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	50g
		展着剤	マイリノー		20,000倍	5mℓ
15	8月下旬 （前回防除の10日後頃）	褐斑病、すす点病、 すす斑病、炭疽病	オーソサイド水和剤 80	収穫前日まで	800倍	125g
		展着剤	マイリノー		20,000倍	5mℓ

※1 早生品種（「さんさ」、「つがる」等）の収穫時期が近いので、農薬の使用時期（収穫前日数）に十分留意する。

※2 収穫前日数の「収穫前日まで」は、散布終了後から収穫まで、24時間の経過が必要。

（2）ハダニ類の防除

- ・ハダニ類の発生が見られる場合は、コロマイト水和剤（2,000倍、収穫前日まで、年間1回）を散布する。ダニ剤の散布前には草刈りを行い、防除効果を高める。
- ・効果を安定させるため単用で散布するとともに、展着剤（マイリノー 20,000倍）を加用する。
- ・高温時の散布は、薬害のおそれがあるので避ける。

3 収穫前落果防止対策

例年、中生品種「千秋」、「秋映」、「こうたろう」等の収穫前落果が多い園では、落果防止剤を使用する。

農薬名	希釈倍率	散布量(/10a)	使用時期	使用回数
ヒオモン水溶剤(※1)	1,000～2,000 倍	300～600ℓ	収穫開始予定日の21～4 日前	2回以内
ストップール液剤(※2)	1,000～1,500 倍	300～600ℓ	収穫開始予定日の25 日～7 日前 (ただし、2回散布の場合は10 日程 度間隔をあける。)	2回以内

※1 効果の確認されている品種は、「きおう」、「つがる」、「王林」、「紅玉」、「陽光」

※2 早生品種は、熟期促進作用がみられることがあるので、収穫遅れにならないように注意する。

4 今後の管理

(1) 土壌水分管理

高温乾燥が続くと見込まれるので、ほ場が乾燥しすぎないように朝夕の涼しい時間帯にかん水を行い果実の肥大を促す。用水から水を入れられるところでは2～3時間十分に水をあて、その後もまとまった降雨がない場合は、3～5日間隔でかん水を行う。特に、若木、わい性台木は注意する。

(2) 支柱立て・枝つり

枝が果実の重みで下がり、光が樹冠内部まで届かない場所では、枝折れの防止と葉摘み、玉回しによる着色向上効果を上げるため、支柱立てや枝つりを実施する。作業は果実が着色する前に行う。

(3) 強風対策

今後の台風等の強風に備え、防風ネットや支柱等の点検を行う。わい性台木園では、支柱への結束を確認する。

★ 農薬を散布するときは、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

★ 熱中症予防のため、こまめに水分を補給しましょう。